

令和元年10月24日開催

教育委員会会議録

福知山市教育委員会

- 1 開会の日時 令和元年10月24日(木)
午後1時30分
- 2 閉会の日時 令和元年10月24日(木)
午後1時46分
- 3 招集の場所 市民交流プラザふくちやま 交流スペース
- 4 出席委員の氏名 端野 学
倉橋 徳彦
塩見 佳扶子
和田 大顕
大槻 豊子
- 5 福知山市教育委員会会議規則第4条により列席したもの
教育部長 前田 剛
教育委員会事務局理事 森山 真
教育総務課長 牧 正博
教育総務課担当課長 貴田 直子
次長兼学校教育課長 崎山 正人
学校教育課担当課長兼教育総務課 伊豆 英一
学校教育課担当課長 土家 邦子
学校給食センター所長 村瀬 勝子
生涯学習課長兼中央公民館長 八瀬 正雄
図書館長 浅田 久子
- 6 福知山市教育委員会会議規則第15条による会議録作成者
教育総務課長 牧 正博

7 議事及び議題

別添のとおり

8 質問討議の概要

別紙会議録のとおり

9 決議事項

なし

福知山市教育委員会会議規則第15条により署名する者

福知山市教育委員会 教育長.....

福知山市教育委員会 委 員

福知山市教育委員会 委 員

福知山市教育委員会 委 員

福知山市教育委員会 委 員

教育委員会会議録調製者 教育部長.....

教育委員会会議録

1 開会

端野教育長が開会を宣告。

端野教育長 次に、現在のところはありませんが、傍聴人から傍聴の申請がありましたら許可をしてもよろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

端野教育長 許可をさせていただきます。

2 前回会議録の承認

端野教育長 前回の会議録については、異議ありませんでしょうか。

全委員 異議なし。

端野教育長 それでは、異議がなければ承認をお願いします。
あとで会議録に署名をお願いしたいと思います。

3 教育長報告の要旨

端野教育長から以下の報告がありました。

(1) 決算審査委員会総括質疑

ア 10月15日(火)10時00分

(ア) 中嶋 守 議員

「平成30年度の教育費における学校関連事業の効果的な執行について」

「平成30年度事業の主な実績や成果について伺う。学校教育における取組内容についての実績や成果は」

○シームレス学園構想に基づき、これからの社会に生きる子どもたちにとって、必要な「生きる力」を身につけさせるために「学力向上、生徒指導、進路実現」の三つのこだわりを柱に各種事業を実施している。

○平成30年度の主な事業として、まず子どもの貧困をはじめとする課題を解決する為に、中学校ブロックごとに学力向上定着事業に取り組んだ。具体的には、子どもたちに将来の展望を持たせるために、様々な職業で活躍する方から話を聞いたり、職場体験をした。

○また、基礎学力や基本的な生活習慣の定着が必要な児童生徒へは、丁寧な家庭訪問や個別指導の充実を図り、学ぶ意欲の向上や学習環境の改善に繋いだ。

○他には、小学校で必修化されるプログラミング教育への対応として、府内で初めて、ロボット教材とタブレット型コンピュータを用いた授業づくりを進めた。

○また、AET配置活用事業では7人の英語指導助手を市内小中学校に配置し、外国語によるコミュニケーション能力の育成に努めた結果、全ての小中学校で外国語を学ぼうとする意欲が向上した。

○生徒指導においては、ネットトラブル防止のために、子どもや保護者を対象とした教室を開催したり、コミュニケーションに不安を持つ子どもを対象に、日常生活の様々な場面での対応を練習するソーシャルスキルトレーニングを実施した。

これらの事業は、これからの社会で必要とされる力を全ての子どもたちに身に

つけさせるために効果的な取組となったと考えている。

「小中一貫教育校 夜久野学園では施設一体型の一貫校として取組が進められているが、その取組の成果は。」

○本市では全ての中学校ブロックで小中一貫教育を実施推進している。

○平成25年4月に福知山市初の施設一体型の小中一貫教育校として開校した夜久野学園では、義務教育の小中9年間を、小学校1年生から4年生までの基礎充実期、小学校5年生から中学1年生までの展開期、中学2年生から3年生までの発展期の3期に位置づけ、それぞれの成長過程にあった教育を、小中学校の教員が協力して指導し、学力向上等に安定した成果を発揮している。

○教育課程の特例として、1年生から9年生までが毎週1時間の英会話コミュニケーション科を学習し、その積み上げた実践は、新学習指導要領で外国語の時間が大きく増えた小学校の活動に生かされている。

○また平成30年度においては、京都府や全国の学力調査において、英語の調査結果は良好な結果となっており、小学1年生から英語に触れ、小中一貫教育における大きな成果と捉えている。

「教育活動を進める上での課題は。」

○教職員の多忙化の問題が社会で大きく取り上げられているが、教職員不足や働き方改革は、本市でも大きな課題であり、早急で抜本的な対応が求められている。

○教師がゆとりを持って子どもと向き合える時間を確保するため、保護者、地域の理解や支援を求めることに加えて、教育のICT化や学校事務の効率化等、あらゆる方策を模索しつつ、今後も取組を進めていきたいと考えている。

「環境整備における取組内容についての実績や成果は。」

○学校の施設整備については、まず子どもたちの安心・安全な学校生活を支えるため、計画的な整備・改修を行ってきた。これまでの計画的な整備として、校舎や体育館の耐震改修はすでに完了し、統廃合する学校を除いた学校の普通教室への空調設備は平成30年度で終了、また教室棟の便所様式化については、中学校は平成30年度に完了し、小学校については、令和2年度で完了予定である。

○また平成30年度では、市立学校教育改革推進プログラムに基づく学校統廃合として、平成31年4月の三和学園開校に必要な校舎の増改築を行い、環境整備を進めた。

○このほか、遷喬小学校教室棟の増改築工事や消防設備の改修、庵我小学校グラウンドの排水改修などに取り組み、教育環境の改善に努めた。

○計画的に取り組んだ事業については、ほぼ完成の目途がつき、また「教育改革推進プログラム」に基づく施設整備等も進み、子どもたちの教育環境は以前と比べて、大きく改善したと考える。

「環境整備を進める上での課題は」

○環境整備を進める上での課題は、小中学校の校舎の多くが建設後50年近く経過していることである。

○施設設備の老朽化が進み、雨漏りをはじめとする躯体の老朽化や給排水設備、電気設備、グラウンドの屋外遊具等に様々な不具合が生じており、その施設等の整備に当たって多額の費用を要する課題がある。

「これらの課題を受けての今後の方向性は」

○教育内容については、働き方改革を推進し、元気な先生と子どもたちが充実した活動を行なえる学校づくりを今後も積極的に進めたい。

○またこれからの社会を子どもたちが夢と希望を持って生きる力を身につけられるように校種間の学びのつながりを大切にする「シームレス学園構想」に基づいて、本市教育の更なる充実に努めたい。

○教育環境整備については、施設の老朽化が進む中で、学校からは多くの改善要

望が上げられており、まず、安心・安全の観点から優先度を見極め、改修・整備を行なっていく。

○また、令和元年度においては、施設の長寿命化をより進めるために「市立小中学校長寿命化計画」の策定に取り組んでおり、計画的に学校施設の整備を進めることで、予算の平準化と必要な財源の確保を図り、未来を担う子どもたちの安心・安全な教育環境整備に努めたい。

(イ) 塩見卯太郎 議員

「子どもを巡る環境と課題からみても、貧困対策、家庭の経済状況からも、子どもの医療拡充、就学援助、放課後児童クラブへの支援の強化は喫緊の課題ではないか。」

○教育委員会では、経済的に厳しい家庭も含め、全児童生徒の学力向上のため、「学力向上定着事業」を実施し、補充学習や家庭支援教育の推進、体験活動の実施など社会的に自立し、確かな進路実現に取り組める力を持った子どもの育成を進めている。就学援助制度と放課後児童クラブについては、適切な基準で運営できているものと判断しており、現在のところ見直す予定はないが、今後の状況については丁寧に把握していきたい。

1点目につきましては、10月15日火曜日10時から平成30年度決算審査委員会が開催され、総括質疑において2名の議員から質問がありました。

中嶋守議員からは、「平成30年度の教育費における学校関連事業の効果的な執行について」、「平成30年度事業の主な実績や成果について伺う。学校教育における取組内容についての実績や成果は。」ということで、大枠は、シームレス学園構想に基づき、「学力向上、生徒指導、進路実現」の三つのこだわりを柱に、それぞれの事業を進めているということで、学力向上定着事業を予算化して取り組んでおり、今年度については、新たにプログラミング教育を府内初ということではあるわけですが、その準備を着々と進めている。AETについても、外国語活動、また、教科英語が始まる中で、AET配置活用事業において、7人の英語指導助手を配置し進めている。夜久野学園のことに触れられるわけですが、その中でも、夜久野学園については、英会話コミュニケーション科の特例化ということで、一層、外国語教育に力を入れ、その効果が出ている状況にある。

生徒指導上についても、ネットトラブル防止のための親子を対象にした教室、こういったことも開催している。

「小中一貫教育校 夜久野学園では施設一体型の一貫校として取組が進められているが、その取組の成果は。」ということで、先ほど申し上げた特例校の問題ですが、その中身が、全国学力学習状況調査等の中であらわれているということで、小中一貫教育校としての成果も見られつつある。

「教育活動を進める上での課題は。」ということで、特に教職員の多忙化の問題、その解決策として、教育のICT化、学校事務の効率化等も進めていきたいと考えている。

「環境整備における取組内容についての実績や成果は。」ということで、まず、子どもたちの安心・安全な学校生活を支えるための耐震改修が完了した。その後、空調設備、それから便所の洋式化等が進められ、既に完了したり、令和2年度で完了するといった事業がある。あわせて、平成31年4月開校の三和学園の校舎増改築を行ったわけですが、環境整備、特に外構については、この11月半ばにほぼ完成、文化祭に合わせて地域にお披露目する予定である。

このほか、遷番小学校教室棟の増改築、消防設備の改修、庵我小学校グラウンドの排水改修等も取り組んだこと、そういうことから見ると、教育環境は、さらに施設整備も進んで、以前と比べると大きく改善したのではないかと考えている。

「環境整備を進める上での課題は。」ということで、特に小中学校においては、校舎が老朽化し、建築後50年近く経過をしているということから、古くなっており、今後、

その修繕・整備については、非常に多額の費用を要するという課題があり、子どもたちが充実した活動を行える学校づくりということを積極的に進めるということで、「市立小中学校長寿命化計画」の策定に取り組んでおり、今後も計画的に学校施設の整備に努めたい。

塩見卯太郎議員からは、「子どもを巡る環境と課題から見ても、貧困対策、家庭の経済状況からも、子どもの医療拡充、就学援助、放課後児童クラブへの支援の強化は喫緊の課題ではないか。」ということで、特に教育委員会だけの質問ではなかったのですが、教育委員会の部分については、経済的に厳しい家庭も含め、全児童生徒の学力向上のために、学力向上定着事業を実施している。就学援助制度、また放課後児童クラブについては、適切な基準で運営できているものと判断しており、現在のところ見直す予定はないが、今後の児童生徒、家庭の状況については、丁寧に把握していきたいといった答弁がありました。

(2) 第55回福知山市立学校・園美術展・下村脩グランプリ2019

ア 事業趣旨

(ア) 学校(園)美術展

図画工作・美術・毛筆書写教育の日ごろの努力の成果を発表しあい、技術の向上を目指すと共に、文化の交流を図り、本市教育の発展に資する。

(イ) 下村脩グランプリ

福知山市生まれの故・下村脩さんのノーベル化学賞受賞を契機に、物事を探求する「かがく」の素晴らしさを知り、「理科ごころ」を育む。

イ 作品展示

(ア) 会期 令和元年10月19日(土)から10月21日(月)まで
午前10時から午後5時まで

(最終日21日(月)は、午後0時30分まで)

(イ) 会場 福知山市厚生会館(福知山市字中ノ170番地の5)

(ウ) 主催 福知山市教育委員会 福知山市学校教育振興会

(エ) 作品数

a 学校(園)美術展

幼稚園絵画	32点		
小学校絵画	502点	毛筆書写	484点
中学校絵画・立体作品	201点	毛筆書写	268点
特別支援教育コーナー			

b 下村脩グランプリ

グランプリ1点 準グランプリ2点 優秀賞27点

ウ 表彰式

(ア) 日時 令和元年10月19日(土)午前9時30分から
(午前9時00分からリハーサル)

(イ) 場所 福知山市厚生会館(福知山市字中ノ170番地の5)

(ウ) 表彰

a 学校(園)美術展

教育委員会賞	絵画・立体作品	11点	毛筆書写	7点	計18点
優秀賞	絵画・立体作品	31点	毛筆書写	21点	計52点
					合計70点

b 下村脩グランプリ

グランプリ1点 準グランプリ2点 合計3点

※表彰式の短縮 今回55分間 更に? 「教育の場」として

2点目につきましては、市立学校・園美術展と下村脩グランプリ2019、二つの表彰式がありました。事業の様子については、資料に書いたとおりですが、特にこの表彰に、例年時間がかかるということで、時間の短縮について、いろいろ工夫はあったわけですが、結局、始めて終わるまでに55分かかりました。

これまでと比べましても、そうそう時間は短くならなかったということで、役員の皆さんは、もう少し何とかしなければならないと話しておられたのですが、私は、一番下に書いておりますが、返事や礼の仕方など、壇上に上がるまでに随分リハーサルをしておりますので、そのものが教育の場であると思っております。

表彰式では、みんな座って待っているわけですし、動き方や礼の仕方、どこでどうするのかということについて、指導をし、あの場へ出て緊張したりと、出ていくのは5分、10分のことですので、教育の場として大事であるということで、短縮ばかりすることを考えなくてもよいのではないかということをおきました。

(3) 平成30年度 文部科学省 生徒指導上の問題行動調査について

(10月17日公表)

ア 「暴力行為」「いじめ」「不登校」「高校中退」「自殺」の全てが前年度を上回る。

イ 学校種別では、小学校が深刻化

ウ 暴力行為 → 小学校で3万6,536件(29%増) → 中学校を上回る。

エ いじめの認知 → 31%増、54万3,933件、小学2年生が最多

学年が上がるにつれ減少

京都府は山形県と同じ全国3番目(最多は宮崎県、大分県)

「認知件数の増加は、気づきが広がったと評価」

しかし、「芽を認知できても、摘み取れていない。」

「多くの子が辛い思いをしている。」

「具体的にどう対処をするか。」に・・・

オ 不登校(小中学生) → 14%増、16万4,528人

3点目につきましては、例年のことですが、平成30年度文部科学省の生徒指導上の問題行動調査の結果が10月17日に公表されました。新聞等にも出ましたが、「暴力行為」「いじめ」「不登校」「高校中退」「自殺」について、小中高特別支援学校の全ての学校で、どの項目も前年度を上回ったという結果でありました。特に、学校種別では、小学校が非常に深刻化し、低年齢化という傾向にあります。

暴力行為については、小学校で3万6,536件、29%増で、これまでは中学校が多かったのですが、中学校を上回ったという結果でありました。

いじめの認知についても、いじめ問題は、今も大きな問題ではあるわけですが、31%増の54万3,933件で、小学2年生が最多となっていますが、学年が上がるにつれて減少しています。京都府は山形県と同じで、全国3番目という結果でありました。

府の状況、市の状況については、この間、担当指導主任から報告させていただいたような調査結果でありました。ただ、これは平成30年度の文部科学省の調査結果ですが、新聞を見ても、認知件数があるときからどんどん上がっています。これは、その芽に早く気づくということから、嫌な思いをしたものは全て件数に含めるということですので、何千件というすごい数になったわけです。認知件数が増加したことは、気づきが広がったとして、一定評価をするということでしたが、認知件数が多いということは、それだけ嫌な思いをした子の件数が多いということですので、そういうことから見ると、芽は認知できたけれども、それを完全につみ取ったのかということ。また、それだけの多くの子どもたちが辛い思いをしたという現実がありますので、一定評価はするものの、たくさん出たケース、その芽をしっかりとつみ取り、どう対応していくかということを考えていかなければならない段階ではないかという指摘の記事もありまし

た。

不登校についても、小中学生で14%増の16万4,528人とありますが、福知山市においても、非常にたくさん、不登校や長期欠席の児童生徒があるという状況であります。市立学校の現況については、準備をしておりますので、後で御説明いたします。

以上3点報告しましたが、御質問、御意見はありませんか。

全委員 特になし。

端野教育長 本日は決議事項がありませんので、報告・説明事項の教育長決裁による後援承認事項について説明をお願いします。

4 教育委員会 報告・説明事項

(1) 教育長決裁による後援承認事項について

由里教育総務課長補佐兼企画管理係長 ~資料に基づき報告~

No.46 初段免状・級位状・獲得こども将棋大会

No.47 2019年度ピティナ・ピアノステップ丹波地区

No.48 第51回少年少女柔道剣道大会

No.49 第5回福知山キンボールスポーツ交流大会

No.50 第25回舞鶴ライオンズクラブ杯 少年サッカー大会

端野教育長 後援承認について御質問や御意見がありましたらお願いします。

全委員 特になし。

端野教育長 承認いただいているということで、事後承認とさせていただきます。

5 閉会

端野教育長が閉会を宣言。